

虹色(私＋あなた＋世界)＝？

学校名	静岡県御殿場市立御殿場中学校		授業者氏名	渡邊 亮祐
対象学年 (人数)	中学2年生 (240名)		実践年月 (時数)	2023 年 12 月～2024 年2月 (5時間)
担当教科等	社会科・国語科			
単元名 (活動名)	虹色 (私＋あなた＋世界)＝？			
実践する 教科・領域	社会科・総合的な学習・道徳			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 () ／ 文化交流 () ／ 多文化共生 (○) B グローバル社会 … 相互依存 () ／ 情報化 () C 地球的課題 … 人権 (○) ／ 環境 () ／ 平和 () ／ 開発 () D 未来への選択 … 歴史認識 () ／ 市民意識 () ／ 社会参加 (○)			
単元目標	・世界も私たちも多様であることを知り、多様だからこそ支え合って生きていくことが大切であることに気付く。 ・肯定的に「ありのままの私」「ありのままのあなた」などの違いに出会い、その違いを受け止めるとともに尊重することの大切さに気付く。			
単元の 評価規準	知識および技能	・私たちの生活は違いに支えられていることや違いがあるからこそ豊かな生活ができていることに気付くとともに、その反面、違いによる問題も多く発生していることを理解できる。 ・アクティビティや話し合いなどを通して、誰もが偏見を持っていることや、その偏見を差別という行動に移してはいけないことを理解できる。 ・アクティビティなどを通して世界には違いに苦しむ人々が多くいることに気付くことができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	・ネパールと日本の共通点や相違点に気付いたり、世界の違いが生む問題や、私たちに中にある偏見や差別意識を見つめたりする活動を通して、自分にとって違いは何か考え、自分なりの考えを表現することができる。 ・違いや偏見、差別による問題をなくし、誰もが「ありのままの自分」でいられるために自分ができることを考えることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・自分が世界や社会の違い＝多様性から生まれる豊かさに支えられていることに気付き、また、その違い＝多様性から生まれている問題があり、また、それに加担し得る偏見や差別意識は誰の中にもあることを理解した上で、誰もが「ありのままの自分」でいられるためにできることを考え、それを実行し、誰にとっても居心地の良い安全な社会を作り出そうとしている。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	・中学生になり、思春期真っ只中の生徒たちは、周りの友人と「仲良くしたい」「より良い関係を築いていきたい」と考えている反面、その関係性の中で見られた少しの「違い」を受容できず、関係がうまくいなくなってしまうたり、それが悪化してしまうといじめや不登校など、深刻な問題に繋がったりすることがある。生徒たちが互いの「違い」を肯定的に受容し、誰もが「ありのまま」を認め合い、より過ごしやすい、誰にとっても居心地の良い集団になってほしいと願い、本単元を設定した。 ・本単元は、「違いを楽しむ」「違いは豊かさ」「違いの生む問題」「違いを乗り越えるために」という流れで展開していく。まず、初めの段階では、違いを楽しみ、肯定的に受け止めながら、自分たちがその違い＝多様性に支えられて生活していることに気付くことを期待している。違いの良さを感じられるような展開を作っていきたい。その後は、違いが生む問題について世界に目を向けるとともに、自分たちのことにも焦点を向けていく。違いを受け入れ、誰もが気持ちよく過ごせるために一人一人ができることを考え、それを実行していこうという気持ちを単元を通して育てていきたい。			

[単元計画 (全5時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	★違いを楽しむ★ ・アイスブレイクやネパールクイズを通して、自分と周りの友人、世界との違いを知るとともに、その違いを肯定的に受け止め、それぞれの良さとして楽しむことができる。	* 私たちとネパール、どんな違いがある? * ① アイスブレイク【4つのコーナー】 →自分と仲間との共通点や相違点を知る。 ⇒自分と仲間との違いを楽しむ。 ② ネパールクイズ →肯定的にネパール、世界と出会う。 ⇒世界との違いを楽しむ。世界の多様性の面白さを味わう	・よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編—他者に関わる力を育もう— ・ネパール現地写真
2	★違いは豊かさ★ ・自分たちの身の回りのものや普段から生活を支えてくれるものについて改めて見直すことを通して、私たちの生活は世界の違い＝多様性に支えられていることに気付くことができる。	* 私たちの世界は多様である。＝豊かである * ① アイスブレイク【3つのホント、1つのウソ】 ② 私が冬休み中にお世話になったもの →冬休み中に自分が使った、お世話になったものをリストに上げていく。【プレスト:リスト】 →自分の生活に欠かせないものに♡、海外と繋がりのあるものに☆をつける。 ⇒私たちの生活は世界に支えられている! ③ もしも、世界が多様でなかったら・・・ →世界が多様ではなく、全く同じ国だったらどうなる? メリットやデメリットから広げていく。【プレスト】 →最悪の結末だと思うものベスト3を決めてマークする。 ⇒世界が多様だからこそ、私たちは豊かに暮らせる	・よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編—他者に関わる力を育もう—
3	★違いが生む問題を 知る・気付く★ ・世界には「あって良い違い」「あってはいけない違い」があることに気付くとともに、その違いが、さらなる格差などを引き起こすことに気付くことができる。	* 違いは豊かさ、だけど・・・ * ① アイスブレイク【同じところ、違うところ】 ② 日本とネパールの違いは? →生活・学校・文化の写真から、「同じ」「違い」を探す。 →違いを「あっていい違い」「あってはいけない違い」に分類し、最もあってはいけない違いベスト3を決める。 ③ 違いが続いたらどのような社会になるのだろう。 →考えられる影響について、考えを広げていく。【プレスト】 ⇒違いが様々な問題を連鎖的に生み出している。 ④ 世界における「違い」の現状を知る →世界がもし百人の村だったらを読む。読みながら、空欄に当てはまる内容を考える。 ⇒あってはいけない違いが世界には溢れている	ネパール現地写真 実物 世界がもし 100 人の村だったら 2020 (総務省統計局「世界の統計」/ 国際 NGO オックスファームデータ他)
4	★違いが生む問題は、 私ごとである。★ ・私たちの身の回りにも違いが生む問題があることに気付くとともに、違いが生む偏見や差別意識は誰もがもつものであると理解できる。	* 違いが生む問題、どこにある? * ① アイスブレイク【宇宙人がやってきた】 ② 今の「私たち」の中にある違いによる問題は? →「社会」「学校」「その他」で見られる問題を考える【プレスト:リスト】 →深刻だと感じる問題にドクロマークをつける。 ③ 日本における人権問題における現状を知る。 →資料を読み、全員で問題を共有する。 ⇒違いによる問題は、海外の問題ではない。 ④ 問題は私たちの周りにある? ない? →アクティビティ「愛さえあれば」「世間のせい」 「愛さえあれば」・・・他人事は良くて自分ごとになったら? 「世間のせい」・・・「みんな」って誰? 自分ではないか? 2 差別が続く原因は? 【因果関係図】 →意見を広げ、自分も当てはまると思うものに丸をつける ⇒誰にも偏見・差別意識がある。	人権啓発活動重点目標 17 項目の現状 (法務省) 愛さえあれば・世間のせい (高知県教育委員会『みんなでつくる人権学習～さいしょのネタをわたします～』)
5 本時	★多様性、ありのままの私、 あなたを認める。 互いの違いを尊重し合う★ ・違い＝多様性を認め合い、誰もがありのままにいられるために、自分ができることを考え、宣言する。	* 違い＝多様性を認め合って生きていくために * ① 「違い」をもう一度見直そう【プレスト:リスト】 →ネパールでのエピソードをグループで読む →エピソードの概要とそこから感じた「違い」を挙げていく。 →違いを「あっていい違い」「あっていけない違い」に分類。 ⇒私たちは大きな違いを認められる。小さな違いは? ② 私たちはなぜ「違い」を認められないのだろう。 →考えを整理する。【因果関係図】 ③ 私の「虹色宣言」 →多様性を認め合い、ありのままに生きていくためには? →自分にできることを3つ挙げる。 ⇒多様性を認め合い、誰もがありのままにいられる、居心地の良い社会にするために、自分にできることは?	

〔本時の展開（5時間目）〕

ねらい	・違い＝多様性を認め合い、誰もがありのままでいられるために、自分ができることを考え、宣言する。										
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料								
導入 5分	* 違い＝多様性を認め合って生きていくために * 1 前回の振り返り →振り返りから、前回の授業で特に印象に残ったこと、考えさせられたことをグループで共有する。 ・自分の中にも偏見や差別意識がある。 ・自分の身の回りにも、違いが生み出す問題がある。	・振り返りプリント(個人の振り返り・教師作成のリマインドシート)を用いて、前回の学びの内容をリマインドする。	・振り返りプリント								
展開① 15分	2 「違い」をもう一度見直そう。【対比表】 →ネパールエピソードをグループで担当を分けて読み合う。 * 自分が担当したエピソードを読み、そこから私たちとの「同じ(共通点)」「違い(相違点)」を考え、タブレット上に意見を出していく。 →全員が意見を出したグループから、 ①担当したエピソードの概要 ②エピソードから気付いた、考えさせられた「同じ(共通点)」「違い(相違点)」の2点をグループ内で共有していく。 →共有後、自分たちが見つけた違いを分類する。【対比表】 「あって良い違い」「あってはいけない違い」に分類する。 →分類後、分類したシートをもとに、「あっていい違い、あってはいけない違い」がそれぞれどのような特徴があるかグループ内で話し合う。 <table><tr><th>あっていい違い</th><th>あってはいけない違い</th></tr><tr><td>・文化の違い</td><td>・命の関わる</td></tr><tr><td>・考え方の違い</td><td>・その人らしさに関わる</td></tr><tr><td>・命にかかわらない</td><td>・アイデンティティ</td></tr></table> →私たちは文化や国ごとなどの大きな違いは認め合える。しかし、その人らしさや尊厳に関わる違いは認められない？	あっていい違い	あってはいけない違い	・文化の違い	・命の関わる	・考え方の違い	・その人らしさに関わる	・命にかかわらない	・アイデンティティ	・タブレットでエピソードを配付。4人組のグループで分担して、7つのエピソードを読んでいく。 ・クラウドで意見を共有し、それぞれの「同じ」や「違い」が可視化できるようにする。 ・対比表を2種類使う。 1 「同じ(共通点)」「違い(相違点)」 2 「あって良い違い」「あってはいけない違い」 ・各グループを回りながら、話し合いを整理するとともに、意見をともに作りあげていく。	・ネパールエピソード資料7編
あっていい違い	あってはいけない違い										
・文化の違い	・命の関わる										
・考え方の違い	・その人らしさに関わる										
・命にかかわらない	・アイデンティティ										
展開② 10分	3 私たちはなぜ「違い」を認められないのだろう。 →考えを広げていく。【因果関係図】 →納得する意見に○をつける【ギャラリー方式】	・話し合いに加わり、一緒に意見を付け足していく。									
終末 15分	4 私の「虹色宣言」 →多様性を認め合い、ありのままで生きていくために必要だと思うことをグループであげる。【プレスト】 →納得する意見に○をつける【ギャラリー方式】 →多様性を認め合い、誰もがありのままでいられる、居心地の良い社会にするために、自分にできることは？ →自分にできることを3つ決め、自分の「虹色宣言」にする。	・グループ→個人の流れ位することで、誰もが自分なりの「虹色宣言」を持てるようにする。									
振り返り 5分											
評価規準に基づく 本時の評価	・これまでに学習したことを生かし、違い＝多様性を認め合い、誰もがありのままでいられるために、自分ができることを考えることができています。										

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	・現地の学校とオンラインでの交流なども考えたが、実施内容的に難しく、交流するのであれば、互いにとって肯定的に認め合い、楽しく学べる機会にしたいと考え、今回の交流は断念した。 ・タブレットを用いるとともに、毎時間振り返りを記入した。また、教師からリマインドシートを毎時間提示し、前時での学びを毎時間振り返りながら学習を進めた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	・教師海外研修での学びや出来事をお便りにして配付した。 ・私だけが授業実践者になるのではなく、学年部の先生に学びや各時間のねらいなどを共有し、それぞれの学級で実践を行った。 ・子どもたちの学習の成果を学年部で共有し、日々の生活に生かした。
苦労した点	・時間の確保が難しく、発行したお便りと実施時期が大きく空いてしまった。 ・「肯定的に出会う」ことを意識したが、自分は「面白い」「たのしい」と感じたことでも、生徒によってはそうは感じないものもあり、誰にとっても「肯定的に出会う」ことの難しさを感じた。 ・各時間の間にも時間が空いたため、子どもたちの思考が時間ごとにぶつ切りにならず、繋がりのあるものにするためにリマインドシートを作成した。書く時間に繋がりを持って臨むことを強く意識した。
改善点	・肯定的に出会う場面で、現地の学生との交流を設ける。実際に現地の人と話した上で授業に入ることで、当事者意識が増した状態で授業に臨むことができる。 ・授業者間でのねらいの共有を密に行うとともに、年間全体を見通して効果的に授業を組み込んでいく必要がある。
成果が出た点	・世界との距離が少し縮まり、外国へ興味を持つ生徒が非常に増えた。 ・人権感覚を養うという意味で、学年全体で意義のある学びをじっくり深めることができた。 ・生徒だけでなく、教員の中でも開発教育・国際理解教育に興味を持つ人が増え、輪を広げることができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・偏見は誰もがもっているものだが、それを行動に移す差別は絶対にすべきではないかと思った。また、世間に笑われる、などと言うが、よくよく考えてみたら世間とは自分自身のことだと気づき、差別や人権のことについて他人ごとではなく自分ごととして捉えることができた。 ・他国との違いは豊かさや良さを生んだり自分たちの生活を豊かにしてくれるという利点もあるが、その違いが貧困や差別を生んだりしていることを知り、とても心が痛んだ。また、1日300円以下の生活をしている人が多くいる中で私は裕福な暮らしをしているうちの1人なんだということを強く感じた。食料もままならない生活をしている人が何億人いるということを絶対に忘れないようにしたい。
授業者による自由記述	・実物や、実際の経験は何よりも豊かな、子供の心を動かすものであると感じた。ネパールエピソードを読みながら「温かい国だな・・・」と呟く子もおり、また、保護者にもそれを読んでいただくことで、今回の学びの輪を広げることができた。 ・学びのリマインドは非常に効果的であった。こういった学習は、いかに自分ごとに行うかが大切であると思う。そのため、各時間に自分が最も印象に残ったことを共有、また、教師からリマインドすることで、繋がりのある学習が展開できた。 ・「明るく真剣に」と毎時間呼びかけた。内容は深刻なものもあるが、どの授業も真剣に学ぶ生徒の姿に感動するとともに、頼もしさを感じた。
単元構想・実施における参考資料等	・よりよい未来をともに学び・ともに創る ファシリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編―他者に関わる力を育もう―(NIED・国際理解教育センター)

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ タブレット中心に行った。学びの足跡を残すことができ、それをリマインドするという面でも効果的であった。



▲ 本単元の1時間目は、学年で一斉に行った。
今日の私の学び

私はネパールと日本は全く違う文化や暮らし方と知っていましたがどのようなところが違うのかわかりませんでした。でも先生の話を聞いてネパールの人たちはこんな生活をしているんだ！こんな文化があるんだ！と知ることができました。やっぱりインターネットで調べるとあまりリアルさがなく見てもあまり面白くないけれど、実際に体験した人の話を聞いたり、ゲーム形式でやったらとても面白かったし、より頭に入った気がしました。とっても楽しかったです！



▲ 1時間目の振り返り。違いを楽しむ様子や、実物や実体験はより好奇心や興味を引き出すものだと感じた。



▲ ビクラム歴のクイズは、子供たちにとって特に驚きが大きかった。
今日の私の学び

ゲームをしてみても同じ地域、同じ学年の子でも違うものを望んでいて、何を思っているのかは一緒だけれど、理由は違ったりして一人一人違うんだなと思った。同じように世界では、同じ地球にいて同じ人間だけれども、違う考え方をしている人が多くいて面白いなと思った。
ネパールのゲームではとても驚いた。特に西暦やカレンダーが違うところがとてもびっくりした。
時間が経っても西暦や月も違うとは思わなかったし、年齢+1するのかなどとても疑問に思った。



▲ 2時間目、「もしも世界が全く同じ国だったら・・・」よく意見をつなぎ合い、考えを深めることができた。



▲ 3時間目。特にあってはいけない違いを選び、それが続くとどんな社会になるのか考えた。



今日の私の学び

他国との違いは豊かさや良さを生んだり自分たちの生活を豊かにしてくれるという利点もあるが、その違いが貧困や差別を生んだらしてしまっていることを知り、とても心が痛んだ。また、1日300円以下の生活をしている人が多くいる中で私は裕福な暮らしをしているうちの1人なんだということを強く感じた。食料もままならない生活をしている人が何億人いるということを絶対に忘れないようにしたい。

今日の私の学び

・多様性という言葉は漠然としていて、よくわからなかったけれど、多様性って意外と身近だと知れた。
・人と意見が食い違う時、あの人も私と同じ意見で、心だったら分かった合点のなにもあることがあるが、様々な人がいるからこそそのメリットもあるのだなと気付かされた。
・それぞれ違う特色を持っている国同士いっしょを見つければ、支え合えればすごく大きな力になるのに、紛争や戦争が耐えないのはすごく悲しいことだと改めて思った



今日の私の学び

気候などが国で違うから楽しく生活することができると思った。国の特産品があることで健康に過ごすことができると思ったので国の違いはとても大切なことだと思った。国と国の違いを使って支え合って生活していると思うので国の違いを大切にしていきたい。自分の国と違う文化を否定するのではなく尊重していきたいと思った。また、1人1人の個性があることも大切だと思ったので個性を大切にしていきたいと思った。



▲ 2時間目の振り返り。違いによる豊かさや、そこから発展した考えに及ぶ子もいた。

今日の私の学び

今日の私の学び

ネパールと日本の違いを探してどれだけ日本が環境に恵まれているかがとてもよくわかりました。そのおかげで私達は不自由なく、生活ができています。でも一方、日本でも災害が不足している小さい子供など、恵まれない環境で育った人もまたいるということを再認識しました。そのような人たちがいるということを忘れずに生きていこうと思った授業でした。

▲ 3時間目。次第に、違いによる問題に気付き、考え始める様子が感じられた。また、自分の身の回りの環境などにも目を向け始めるような意見が出た。

① スーパーマーケットの会話
「お相手の人は「○○」らしい」
→ 「○○」に入る言葉は??

愛さなければ・・・

年収が少ない
元犯罪者 外国人

② 「愛さなければ・・・」「世間のせい」
読んで感じたことを書いてみよう

周りのせい、世間のせいという言葉を使って、自分を守っているように聞こえる

知らず知らずのうちに何になってしまっているかもしれない人権差別は、どこまでが差別なのだろうか

① スーパーマーケットの会話
「お相手の人は「○○」らしい」
→ 「○○」に入る言葉は??

愛さなければ・・・

元々犯罪者だった
障害者
低収入
バツイチ
ギャンブルやってる
同性愛者

② 「愛さなければ・・・」「世間のせい」
読んで感じたことを書いてみよう

世間が悪いと言っても自分も世間のうちの1人なんだというのを強く感じた。また、普通や当たり前の基準に考えているのではないかなと思った。

① スーパーマーケットの会話
「お相手の人は「○○」らしい」
→ 「○○」に入る言葉は??

愛さなければ・・・

障害者
貧乏
借金がある

② 「愛さなければ・・・」「世間のせい」
読んで感じたことを書いてみよう

多数派の人たちが自分の意見は多数派だと思って世間のせいになっている。少数派にならなければみんなが多数派の人たちに合わせようという差別などが起こってしまう。

▲ 4時間目。「愛さなければ」「世間様へ」のアクティビティを行った。偏見や差別意識が自分自身の中。そして誰の中にもあることを改めて見直した。

社会	学校	その他
円安 少子高齢化 長時間労働 人材不足 バウハラ セクハラ 働き方改革	地球温暖化 就職の難易度 SNSでのトラブル バリアフリー化 通学 コロナ	不登校 いじめ 虐待 地震



- ▲ 4時間目。因果関係図で、「差別が続く原因」について考えた。
アクティビティの内容を踏まえて答える意見が多く、じっくりと話し合いながら意見を出し合い、繋げ合う姿が見られた。

今日の私の学び

- 「みんなが言っているから」「みんな持っているから」「世間が許さない」「世間のどんなの」全部聞き覚えのある言葉で、あまり疑問に思ったことがなかったけれど、「みんな」や「世間」という言葉こそ差別や偏見のきっかけとなってしまうし、自分が意識していないうちに差別的な言葉を話してしまうこともあると思うので、自分にも、周りに人にも差別意識はあるということを理解し、自分の言動をもう一度見直していきたい。



今日の私の学び

- 偏見は誰もがもっているものだが、それを行動に移す差別は絶対にすべきではないかと思った。また、世間に笑われる、などよく言うが、よくよく考えてみたら世間とは自分自身のことだと気づき、差別や人権のことについて他人ごとではなく自分ごととして捉えることができた。



- ▲ 4時間目。振り返りでは、意識しないうちに誰もが偏見や差別意識を持っている、ということについて改めて考え直すような振り返りが多くあった。特に、「みんないてるよ」の「みんな」は誰なのか、それは自分ではないか、というところに、多くの気づきや意見が集まった。

私たちの「同じ」	私たちの「違い」	その他の気づき
サッカーをする ジェスチャーをする 差別が禁止されている 差別が生み出されている	カーズト制が残っている ささやかな差別がある いじめが無い 二重国籍のバグがある 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある	名前で身分がわかる 日本より油が濃い 家族と呼ぶ ジェスチャーが通ずる 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある

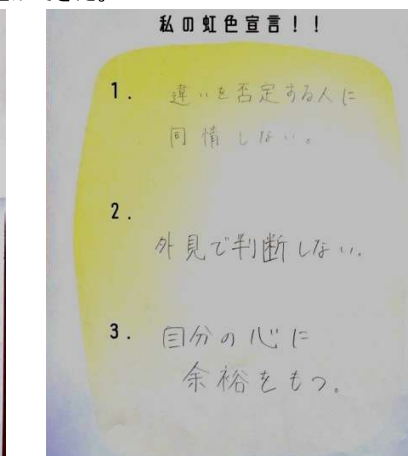
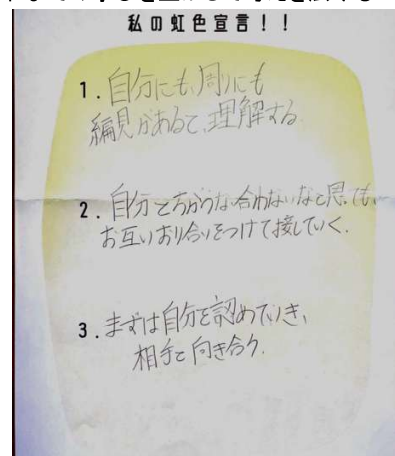
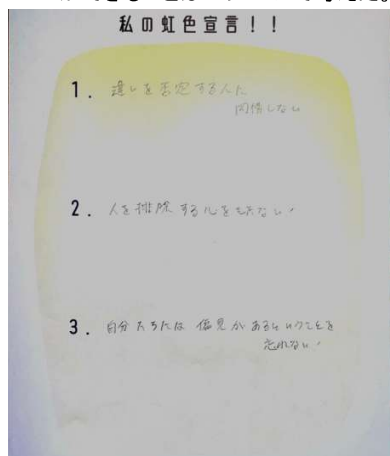
あっていい違い	あってはいけない違い	判断が難しい違い
サッカーをする ジェスチャーをする 差別が禁止されている ジェスチャーがあいまいにバグがある いじめが無い 家族と呼ぶ	カーズト制が残っている 水泳水がそのままだ 差別が生み出されている 日本より油が濃い 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある	名前で身分がわかる 日本より油が濃い 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある



あっていい違い	あってはいけない違い	判断が難しい違い
日本の食生活が健康的 ジェスチャーがあいまいにバグがある 差別が禁止されている ジェスチャーがあいまいにバグがある いじめが無い 家族と呼ぶ	カーズト制が残っている 水泳水がそのままだ 差別が生み出されている 日本より油が濃い 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある	名前で身分がわかる 日本より油が濃い 水泳水がそのままだ 日本より差別的なバグがある



- ▲ 5時間目。エピソードから同じと違いを見つけ、それを「あっていい違い」「あってはいけない違い」に改めて分類した。その後、なぜ違いを受け止められないのかを因果関係図で考えた後、多様な人と違いを受け入れて生きていくために私ができることは？について考えた。これまでの学びを生かして考えを広げることができた。



- ▲ 5時間目。「私の虹色宣言」として、多様な人と違いを認めあい、ありのままに過ごしていくために自分ができることを3つ決めて、宣言を行った。学習内容を生かした前向きな内容がとても多く、単元を通して繋がりをもちながら考えることができたと感じた。